

南山だより



東京都港区元麻布 3-8-15 TEL03(3403)5773 FAX03(3408)4532 MAIL:nanzan-es@minato-tky.ed.jp

「待ちの姿勢」に徹することで分かること 見えてくるもの

私が4年担任の時に1泊2日の宿泊行事がありました。夜は恒例のキャンプファイヤーです。実行委員で話し合い、班ごとに出し物をするようになりました。グループの出し物のひとつに「紙芝居」がありました。私は、あえて待つことにしました。それは「夜は暗いから紙芝居は見えない。だから紙芝居はやめよう」と子供の気付きに期待したのです。しかし、紙芝居グループは準備を進め、キャンプファイヤーの日を迎えました。辺りは暗く、炎だけが明るく輝いています。みんなも炎を囲んでいるので、対角上はお互いの顔も見えません。

ついに紙芝居が始まりました。暗い中、紙芝居の話し声だけが聞こえてきます。すると、ひとりの子から「絵が見えないよ」の声が……。周りがざわつき始めました。私は、この声を紙芝居グループへのアドバイスと受け止めました。紙芝居の話は、どんどん進んでいきます。そして、ついに紙芝居が終わりました。紙芝居グループは、やり切った感で満足しています。しかし、周りの友達からの「絵が見えなかった」の声に、紙芝居グループの子供たちは、騒ぎ始めました。

この夜、私は紙芝居グループへの声かけをしませんでした。来年のキャンプファイヤーの出し物に生かせばいいと考えたのです。キャンプファイヤー終了後、残り火を見ながら、実行委員の子供とふりかえりをしました。実行委員からは「みんなが楽しめてよかった。」「いい思い出ができた。」など自分たちの計画がうまくいったことへの達成感や満足感に浸っていました。そろそろ、ふりかえりを終わろうとした時、ある子が「紙芝居が見えなかった。せっかく一生懸命描いた絵を見たかった。」と言い出しました。すると別の子が「明日の朝会の時間に紙芝居をもう一度やってもらったらどうだろう。先生、時間はありますか。」と私に聞いてきました。私は「みんなのやさしい気持ちはとてもうれしいです。時間はあるから、紙芝居をやってもいいけれど、紙芝居グループはやってくれるかな。」と言いました。するとひとりの子が「紙芝居グループの人たちがいいって言えば、やっていいですね。」と言ってきたので、私は「もちろん。」と応えました。就寝の時間がきたので、話はここで終わりました。

翌朝、実行委員がきて、私に言いました。「先生、紙芝居をやります。」再度、紙芝居が始まりました。今日は絵もよく見えます。みんなも話をよく聞いています。そして、紙芝居は終わりました。昨夜にはなかった拍手もありました。紙芝居グループも満足げな表情をしています。次の瞬間、紙芝居グループの子がこう言いました。「初めてのキャンプファイヤーだったので、自分たちのやりたい楽しいものを考えてしまいました。来年のキャンプファイヤーで紙芝居はしません。」みんなは笑うことなく、黙って話を聞いていました。

出し物を決める時点で、私が「夜は暗いから紙芝居は見えないよ。」と言っていたら、紙芝居はなく、キャンプファイヤーはもっと盛り上がったかもしれません。私たち教員がよかれと思って、子供が考えたことを先回りして応えてしまうことは、時に子供が自分で考えて行動することを妨げているのかもしれません。これはとても難しいことです。担任時代を通じて、私は子供を信じて待つことで「この子はこんなことを考えていた。」「先に私から話さなくてよかった。」「子供は私が予想していた上をいった。」など、子供から学ぶことが多々ありました。

学習指導や生活指導で難しいことはありますが、「待ちの姿勢」に徹することで、子供のよさや意外な一面と可能性を知ることがあります。2学期も様々な指導場面で子供の反応を予想し、指導や支援に生かしていきます。

箱根夏季学園～自然と共に生きるということ～

5年担任

5年生は、夏休みの7月26日と27日に、箱根に行ってきました。全員で話し合って決めたスローガン、『みんなで協力し、礼儀を大切に仲良く行動し、箱根の自然を大切にしながら学ぼう。』を心に、参加者一人一人が一人二役を担って全力で頑張る姿が印象的でした。一泊二日の行程の中で、事前学習と事前準備を生かして、班や自分のめあてに向かって意欲的に挑戦する姿がたくさんありました。総合的な学習の時間に調べた環境問題やSDGsについての学習を生かし、箱根の豊かな自然を満喫したい思いを巡らせました。1日目はあいにくの雨でしたが、係が企画したバスレクを楽しみながら待ちに待った箱根に到着し、芦ノ湖畔近くの箱根ビジターセンターで箱根の自然について学びました。保護者の方が作ってくださった弁当も美味しくいただきました。ご協力ありがとうございました。



箱根ニコニコ高原学園では、夜、キャンドルファイヤーを行いました。厳粛な雰囲気の中、難波校長先生が火の神様として登場し、火の神の子一人一人の決意を受け止めながら火を分け与えていきました。『優しさの火』『思いやりの火』『勇気の火』『信頼の火』、子供たちが考えた決意です。懐かしい歌とダンスで大いに盛り上がった後、穏やかなキャンドルの炎が心地よく揺らめく中で、みんなで想いを共有し合いました。夜の振り返りの会では、各班長が成果と課題を述べ、団結を



より深める明日にしよう決意することができました。2日目は、みんなの願いが通じて晴れ、酪農王国オラッチェで自然体験を行いました。大きな白なすやとうもろこしなどの新鮮な夏野菜の収穫、丹那牛乳工場見学、可愛い羊や牛へのえさやり、巨大とうもろこし畑の迷路を体験しました。緑豊かな美しい空気をたっぷり吸いながら、各班で団結力を高めることができました。

一泊二日の協同生活の中で、子供たちはお互いを尊重し合うことや思いやりをもって行動するよさを実感し、力を合わせて生活する大切さを学びました。また、自然体験を通して、自然の豊かさと産業への関心を深め、新たな問いに出会うことができました。今回の経験を、一人一人の自信の糧とし、今後の学校生活で生かしてほしいと期待しています。保護者の皆様を始め多くの皆様方のご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。

3学期開始 特別支援教室の通級及び学習支援員の配置 申し込みについて

特別支援コーディネーター

本校では、平成28年度から発達について気になる児童を対象に、生活面や学習面での困難を克服・改善するための指導を行う場所として、校内に特別支援教室(ステップルーム)を開室しております。また、通常の学級における教室内の一斉指導で、苦手なところを補うために個別に支援を行う学習支援員を配置しているところです。

現在、これらの指導・支援を受けておらず、今後、特別支援教室の通級、あるいは学習支援員の配置を希望される保護者の方は、9月7日(水)までに、担任、特別支援コーディネーター(梨澤、片野、盛林)、または副校長にご相談ください。

9月行事予定

1日(木)	始業式、給食始	14日(水)	クラブ活動
3日(土)	引き取り訓練	26日(月)	学校公開(偶数)
6日(月)	委員会	27日(火)	学校公開(奇数)、学校説明会
12日(水)	保護者会		

9月生活目標

気持ちをこめてあいさつしよう